

教育

「自己肯定感に満ちた子」をめざします！

多久市の学校は、1年生から9年生が「2つの学校」である「義務教育学校」となりました。

21世紀型スキルの育成、『学び合い』の理念「人も見捨てない」の実践により、『自己肯定感に満ちた子』をめざします。

各学校では、「知」「徳」「体」をキーワードに心身ともにバランスの取れた教育を展開し、各学校の学校運営協議会（コミュニケーション・スクール）の取り組みにより、学校応援団の募集等も始まります。ぜひ、市民のみなさんが、多久市の教育に関心を持ち、学校ボランティアとして参加いただくことで、子どもの育ちへの支援と協力が満ちあふれる「文教の里」多久をめざしたいと思

今月の論語

義を見て為^せざるは
勇なきなり

正しいことをしなくてはならない時、引込んでしまうことはひきょう者である。

○管理職体制（学校長・副校長・教頭の紹介）・児童生徒数

学校名	東原彦舎東部校	東原彦舎中央校	東原彦舎西溪校
校長	中西 順也	峰 茂樹	吉崎 泰
副校長	釘本 浩	福田 健成	南里美紀江
教頭	橋口 孝浩 福山 信正	熊谷智佳子 青柳 博文	古賀 一成 富永 俊則
児童数	226名	535名	182名
生徒数	105名	286名	104名

問い合わせ 教育委員会 学校教育課 ☎75-2227

教育長コラム

ちよっといい話



「普通になりたい」

養護学校（現在の特別支援学校）に勤務した頃、生徒に作文を書かせた。

下半身麻痺のA男は、体を支え、車椅子をこぐ自分の両手を見つめ「君のおかげで僕は何でもできる、ありがとう。これからもよろしく」と、書いた。

身体中の筋肉が動かなくなるB子は、それでも「勉強したい」と訴えて、手が動かなくなつてからは足の指で鉛筆を挟み、やがて口でくわえて勉強した。足で書いた作文は切実な自分の夢をつづっていた。「普通になりたい」。

教育長 田原 優子

市民文芸

◆道の駅 句のたけのこツワわらび
方言飛び出し笑顔はじける
梶原恵美子

◆挿木して 夫の植えにしアジサイは
色鮮やかに今年も咲ける
福島那智子

◆さくら花 散り急ぐなり今日見れば
若葉となりて陽に輝けり
川浪 信子

◆ありがとう 越える言葉に辿り着く
俺の人生そこに極まる
野崎 隆幸

◆青き風 微笑む杜の孔子廟
雅楽流れて 釈菜始まる
浦野 嘉恵

◆鶯のこゑを力に 鉄返す
倉成 皓二

◆身にまどふ芽吹く匂ひの山路かな
武富 律子

◆花吹雪 丸みを帯びし姉の背
中嶋 清子

◆草木染 干す坪先に五月来る
富樫 明美

◆つつじ燃ゆ 眼下に青き筑後川
大石ひろ女

◆狙うほど老いの懐ぬくくない
高塚チカ子

◆空金庫 バレそうなので鍵かける
松下 修

◆ふるさとの空は格別頼もしい
井上 東子

◆追伸に本音をのせて待つ返事
田中久美子

◆落葉は踏まれ新緑仰がれる
西山 残月

— 川 柳 《多久市川柳会 互選》 —

— 俳 句 《互選》 —

— 短 歌 《麦の芽短歌会 互選》 —